

令和5年度 皇學館中学校 入学試験問題（A日程）

国 語

問題用紙は六枚あり、問題は〔一〕から〔三〕まであります。

## 国語 (その1)

## 注意

… 字数をしている問題は、すべて句読点を含みます。

〔一〕次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(ただし、出題の都合上、文章中の表現を改変した部分があります。)

建築というのは、屋根があつて壁がある。そうやって雨風をしのぐ。もちろん出入口もないといけない。壁には窓もある。しかし屋根があつて壁があつて窓がある、それだけでは「建築」とはいえない。美しくないと、つまらない。

京都の建築には、三つのタイプがある。仏教の寺院、神社、それに住宅だ。まず建物の前に立つたら、この三つのどれにあてはまるかをチェックすることから始めよう。

寺院には、本尊を<sup>A</sup>安置する「本堂」(金堂、仏殿ともいう)や、講義や修行をする「講堂」、それに「塔」などがある。これらのセットを「伽藍」という。京都にある塔で美しいのは、東寺(教王護国寺)の五重塔や、醍醐寺の五重塔などだ。

神社には、入口にあたる「鳥居」、それに神を礼拝する「拝殿」などがある。

また住宅は、時代により変わるが、貴族が住んだ平安時代の建築を「寝殿造」、武家の家である「書院造」、それに書院造に茶の美学をとり入れた「数寄屋造」がある。

京都の建築は、ただの建物ではない。美がある。それを見るために、屋根と窓について説明をしよう。

屋根には、いくつかのタイプがある。基本形は、切妻造と寄棟造だ。「妻」というのは奥さんのことではなく、建築用語だ。

背骨のような屋根の棟と直角の面をさす。ここが切れている、**X** 断面のような構造になっているのが「切妻造」だ。また「寄棟造」は、棟から四つの屋根面が出ているものをいう。二つは台形、あと二つは三角に近い形になる。

さらに「入母屋造」という屋根がある。これは切妻造と寄棟造が合体したものだ。上部が切妻造、下部が寄棟造になっている。

もう一つ、「宝形造」も説明しよう。屋根の棟は<sup>C</sup>背骨のように線になっているものが多いが、そこが点になっているものだ。上から見ると、中心点から四方に、三角形の屋根が広がっている。

建物の前に立つたら、まずは屋根を眺めてみよう。どのタイプに属するか。そして大切なのは、分類して終わることではない。分類すると<sup>D</sup>構造が見える。次は、その( I )、重厚さ、軽さなどを感じてみることだ。まっすぐな線、流れるような線、跳ねる線、屋根にはいろいろな形がある。屋根は、人体でいえば髪や帽子の部分にあたるが、壁を胴体とするなら、屋根は建物の顔でもある。えばつたような屋根、優雅な屋根、華麗な屋根、控え目な屋根。そこには人の顔と同じような( II )がある。

そして京都の美を語るのに欠かせない「窓」についても説明をしよう。窓は、風通しを良くして空気をきれいにするため、あるいは暗い室内に光を取り込むためにある。でも、<sup>E</sup>そういう実用面だけが窓の役割ではない。美を演出する大切なアイテム、それが窓なのだ。建物を外から眺めたとき、それは単調な壁面にアクセントと表情を与えてくれる。また室内から窓を眺めると、窓が額縁のようになって、外の景色が一幅の絵画に見えてくる。この「額縁」こそが、京都という美の殿堂の一つのハイライトにもなっている。

ここでは源光庵と天得院の窓、それに宝泉院を取り上げよう。源光庵には、二つの大きな窓がある。四角い窓と、丸い窓で、空気を入れ替えたり、光を入れるという実用的な窓ではなく、あきらかにデザイン的、美的な理由から作られている。「なにかが言いたい」ということがあつて、こういう窓が作られたのだと分かる。この二つの窓は、角窓が「迷いの窓」、丸窓が「悟りの窓」という。なんだかダジャレみたいな、いかにもという感じのお説教くさい( III )だが、<sup>F</sup>四角い枠の中に、そして丸い枠の中に、庭の景色を見ると、なにか「くるもの」がある。四角や丸というのは、形体の極致みたいなものだが、その抽象的な枠の中に、庭の本物の植物、本物の石がある。もしこの枠がなかったら、なんでもない庭かもしれないが、枠がつくことで、どこかスペシャルな感じがするし、造形的な構図も「決まっているな」と思える。丸や四角は、世界中に普遍的な形で、植物も岩も、地球のどこにもある。**Y** それらが組み合わさると、なぜか「これこそが京都!」という感じがする。たかが窓であるが、美は、そんなところから生まれるのだ。

窓枠を鑑賞しようというなら、お勧めなのが、東福寺の塔頭の天得院だ。塔頭というのは、寺の境内にある子院のことで、天得院は、東福寺の門の手前にある。この寺の庭は、桃山時代に作られた枯山水だが、いまでは石組の痕跡がわずかに残っているだけだ。しかし七月になると桔梗の花が庭一杯に咲き、夜には( IV )もされ、特別公開される。ただぼんやり、小さな庭を眺めて時を過ごしたいなら、行ってみたらよい寺だ。

この天得院に、釣鐘形の華頭窓がある。華頭窓というのは、窓枠の形が丸でも四角でもなく、上枠が花のように複雑な形をしているものをいう。神社や城の窓に多いが、天得院にも、おしゃれな華頭窓がある。こここの窓は、全体が釣鐘の形にも見える。桔梗が咲く季節には、この窓をとおして、花の乱舞を見ることができる。苔と皐月の緑と、岩と紫の桔梗。とくに「あつ」

国語 (その二)

といわせる仕掛けがあるわけではない。でも捨てがたい小さな美が、この寺にはある。

(布施英利『京都美術鑑賞入門』より)

問1 部A～Dの漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

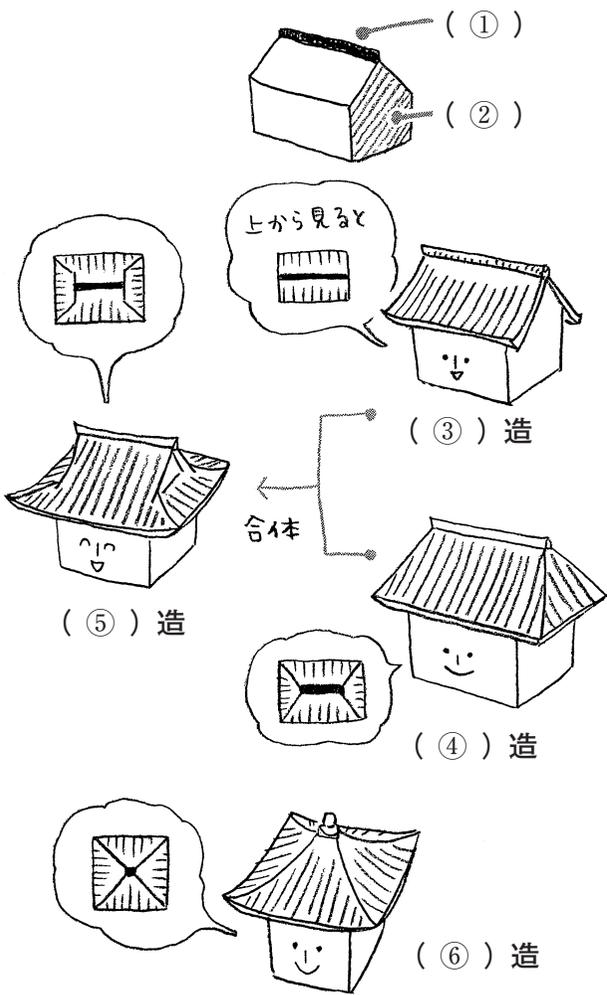
問2 空欄(くうらん) (I)～(IV)に最も適する言葉を、次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア ネーミング      イ バリエーション      ウ プロポーション      エ ライトアップ

問3 空欄X、Yに最も適する言葉を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば      イ つまり      ウ さて      エ しかし      オ なぜなら

問4 次の(図)について、空欄①～⑥に最も適する言葉の組み合わせを、あとのア～エから選び、記号で答えなさい。



- |   |   |   |     |   |    |   |     |   |     |
|---|---|---|-----|---|----|---|-----|---|-----|
| ア | 棟 | ① | 切妻  | ③ | 寄棟 | ⑤ | 入母屋 | ⑥ | 宝形  |
| イ | 棟 | ② | 寄棟  | ④ | 切妻 | ⑤ | 宝形  | ⑥ | 入母屋 |
| ウ | 妻 | ③ | 切妻  | ④ | 寄棟 | ⑤ | 入母屋 | ⑥ | 宝形  |
| エ | 妻 | ④ | 入母屋 | ⑤ | 切妻 | ⑥ | 寄棟  | ⑦ | 宝形  |

問5 部①「そういう実用面」とはどういうことですか。文中の言葉を用いて説明しなさい。

問6 部②「四角い枠の中に、そして丸い枠の中に、庭の景色を見ると、なにか『くるもの』がある。」について、その理由を説明しなさい。

問7 筆者が日本に古くから伝わる「建築」に求めるものは何ですか。五十文字以内で答えなさい。

国語 (その三)

〔二〕次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(ただし、出題の都合上、文章中の表現を改変した部分があります。)

土曜日だからか、小さな子ども連れの家族や犬を連れのおじいちゃんと、それなりに人がいた。公園の入り口でいつものように写真を撮って、白井くんに送信する。

すぐに引き返してもよかったけど、( I ) 家に帰る気分になれなくて、公園の奥に進んで空いているベンチに腰かけた。

…寒い。

一月も半ば過ぎ。冬まったただ中で、空が澄んで日差しが暖かくても、それを台なしにするくらいに風は冷たい。なんとなく腰を落着けちゃったけど、そんなに長居はできなそうだ。手袋もないし、温かいペットボトルのドリンクでも買えばよかった。

コートのポケットに両手をつっ込み、公園を訪れる子どもを、親子を、おじいちゃんを眺める。

みんなこの街に住んで、今まさに、この場所が思い出の地となるような記憶を作ってるのかも。

わーっと叫んじやいたいような気持ちになってきた。

思い出もないこの街で、私はなんにもやってない。

叫ぶこともできないし、どうしようもなく膝に顔を突っ伏そうとした——直後。

自転車のブレーキ音が辺りに響いた。

公園の入り口に、ママチャリが停まっている。

「……え？」

自転車を降りて押しながらこっちに来るのは、( II ) 白井くん。

なんで？

白井くんは黒のダウンジャケットにジーンズとオフモード。そういえば、私服は初めて見た気がする。やっぱ、背、高いな。きよんととして目をパチパチしてるうちに、白井くんは私の前まで辿り着いた。

「何やってんの？」

「すがすがしいほど X 。

「それ、こっちの台詞だし……。」

白井くんは自転車を止め、ハンドルに手を当てたまま話し始めた。

「俺、今日、暇してて。そしたら、早阪さんが写真送ってきたから、いるのかなと思って」

「なんで？」

「今までだって写真は送ってる。( III )、白井くんが来たことはない。

「いつもは夜にまとめて送ってくるじゃん。俺がメッセ送ってすぐに返信が来たことはないなって」

「言われてみれば、確かにそうだ。」

「白井くん、暇だったんだね」

「うん、暇だった。早阪さんも暇だったの？」

「別にそういうわけじゃ……」

言葉は続かなかった。暇といえば ( IV ) 暇だし。

白井くんの顔を見つめた。

「今までずっと、白井くんに言うか言うまいか、悩んでたことを口にする。」

「西千葉案内、( V ) 送ってこなくていいよ」

「そうなの？」

「この街のこと知らないって言ったの、私だけ……その、色々教えてもらっても、あまり意味ないんじゃないかと思って白井くんにとっては思い出の場所でも、私にはなんにもない場所ではない。」

それは、どんな場所を教えてもらっても変わらない気がした。

「色々教えてもらったのに、その、ごめんだけ」

①「早阪さんって、律儀だよな」

突然の言葉に目を瞬いた。

「俺が一方的に送ってる場所、全部全部回ってさ。証拠の写真まで送ってくるとか、律儀だなんてずっと思ってた」

「それは……教えてくれるのに、無視するのも悪いし」

国語 (その四)

「多分、普通はうざかったら無視すんじゃない？ で、忘れてなんもなかったことにする」  
……中学時代のこと、そんな風に、なかったことにできたらよかったのかも。

住む街も、学校も変わった。

リセットだって、いくらでもできた気がするのに。

「私、そういうの苦手なのかも」

記憶は残る。

無視なんてできない。

② 今さっき、西千葉駅であったことを、ポツポツと白井くんに話した。

話してちよつとすつきりして、同時にちよつとしまったかなって思う。

白井くんとは、お悩み相談をするほど親しいわけじゃない。

こんな話をされても面倒だよな悪かったなって、内心ため息をついていたら。

「俺さ、夏のインハイの前に、陸上部やめたんだよね」

唐突に、白井くんの話になった。

「脚、怪我してさ。リハビリとかすれば部活にも戻れるって言われたけど、普通に生活するのに困らなければいいし、そんな

しんどい思いしてまで部活に戻るのも面倒な気がして」

急にシリアスな話になった気がして、反応に困ってしまう。

「それはその……部活に戻らなかったのを、後悔してるって話？」

「いや、別に後悔してないけど」

ちよつと Y。

「私は怪我とかしてないんだし、やりたいなら今からでも部活やったら？ とかアドバイスしてくんのかと思った」

「えー、それ暑苦しくない？ 俺、<sup>③</sup>そういうキャラじゃないし」

そうなのか。今私が見つかったことと言えば、「そういうキャラ」かどうかわかるほど、白井くんとは仲がいいわけじゃないってことくらいだ。

「四月の時点で、早阪さんは部活やるの無理！ って思ってたんだろ？ ならやっぱ、無理だったんじゃない？ って俺は思

うけど」

「そういうもの？」

「昔の自分がそう判断したなら、それってもうどうしようもないじゃん」

その考え方は、とてもシンプルだった。

「どうしようもない、か」

「まあ、判断ミスすることもあるだろうけどさ。そういうときは、全力で反省するってことで」

……それなら。

反省、するようなことじゃない気がしてきた。

希実と結業に会って、昔のことなんて気にしないで部活に入ればよかったって後悔しかけた。

でも、今から何か部活に入りたいかって訊かれたら、そこまでのものじゃない。

そしてそうなる、さっきまでなんでへこんでたのか、さっぱりわかんなくなってくる。

……まあ、何はともあれ。

「ありがとう」

④ するつとお礼の言葉が口から出てきて、白井くんはふつと笑った。

(神戸遥真『きみとホームで待ち合わせ』より)

問 I 空欄 ( I ) ~ ( V ) に入ることばの組み合わせとして、最も適するものを、次のア~エから選び、記号で

答えなさい。

- |   |   |       |    |       |     |       |    |      |   |      |
|---|---|-------|----|-------|-----|-------|----|------|---|------|
| ア | I | なぜか   | II | なんとなく | III | もう    | IV | もちろん | V | ずっと  |
| イ | I | もちろん  | II | なんとなく | III | なぜか   | IV | もちろん | V | もう   |
| ウ | I | なんとなく | II | なぜか   | III | もちろん  | IV | ずっと  | V | もう   |
| エ | I | ずっと   | II | なぜか   | III | なんとなく | IV | もう   | V | もちろん |

国語(その五)

問2 空欄 X、Y に最も適する語句を次のア～クからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 臨機応変      イ 傍若無人      ウ 明朗快活      エ 単刀直入  
オ 強引      カ 小心      キ 拍子抜け      ク 重々しい

問3 — 部①「早阪さんって、律儀りひぎだよな」とありますが、それはどのような点ですか。本文の表現を使って答えなさい。

問4 — 部②「今さつき、西千葉駅であったことを、ポツポツと白井くんに話した。」とありますが、それはどのような内容だと考えられますか。最も適する内容を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 中学時代の部活で、ライバルとして競い合った友人に出会い、「私」とは違って、高校でも熱心に部活を続けていて、今では有力な選手として活躍していると自慢されたこと。  
イ 「私」が高校での部活動から遠ざかる原因を作った友人に再会し、部活を二分するほど険悪な関係だった二人が、同じ高校で同じ部活を続け、仲良くしている様子をまのあたりにしたこと。  
ウ 中学時代、部活のチームワークを乱し、部活なんてこりごりだと「私」に思わせた友人たちが、偶然出会った私に高校での部活に参加することを、熱心に勧めてきたこと。  
エ 高校に入って、時間が流れて環境が変わり、中学時代からは想像も出来ないほど変化した友人に出会って、自分だけが取り残されたような気持ちになってしまったこと。

問5 — 部③「そういうキャラ」とはどのような性格ですか。わかりやすく答えなさい。

問6 — 部④「するっとお礼の言葉が口から出てきて、白井くんはふっと笑った。」とありますが、「私」は「白井くん」に対してなぜ「お礼の言葉」を口にしたのですか。その理由を五十字以内で答えなさい。

〔三〕 次の問いにそれぞれ答えなさい。

問1 次の①～③の — 部について、それぞれ漢字に直して書きなさい。

- ① 客をママネク。      ② エエンギ力をみがく。      ③ 集団をトウソソツする。

問2 次の①～②の四字熟語があとの【意味】をあらわすように、共通して使われる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① 右( ) 左( ) … 【意味】あわてふためいて、あっちへ行ったり、こっちへ来たりすること。  
② ( ) (三) ( ) 四 … 【意味】何度も何度もくりかえすさま。

問3 次の①～④の各組の熟語のうち、組み立てが他と異なるものを、あとのア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ア 意志      イ 再考      ウ 予知      エ 逆行  
② ア 寒暖      イ 伸縮      ウ 昇降      エ 停滞  
③ ア 開山      イ 起業      ウ 密閉      エ 望郷  
④ ア 無人      イ 完治      ウ 不備      エ 未納



令和5年度 (A日程)

国語 解答用紙

㉓						㉔						㉕										
問9	問5	問4	問3	問2	問1	問6			問5	問4	問3	問2	問1	問7			問6	問5	問4	問3	問2	問1
		①	①	①	①							X								X	I	A
		②																		Y	II	B
問10	問6		②	②	②							Y										
		③																			III	C
	問7		③		③																	
		④																			IV	D
	問8		④																			
		⑤																				

受験番号
得点